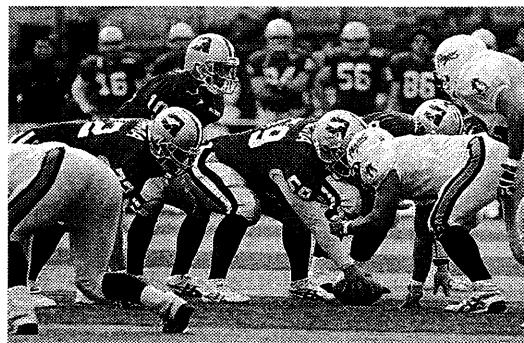


10月24日、横浜スタジアムで行われた五洋パイレーツ戦は21対7で勝利。開幕4連勝を飾り、東地区の2位以内を確定。決勝トーナメント進出を決めた。第5戦は11月2日、全勝対決として注目を集めるアサヒビールシリバースターと東京ドー

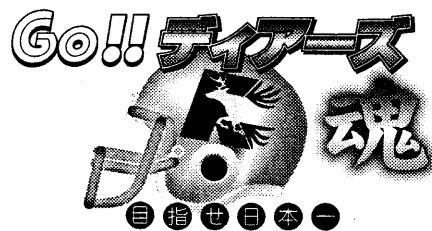
日本一を  
占う一戦に

ムで対戦する。アサヒはライスボウル優勝3回の強豪。チーム黄金期を支えたメンバーと若手の入れ替えも順調に進む。DE RRSはけが人も多いが、総力を結集して打倒・アサヒを目指す。日本一に向け避けては通れない相手。この一戦が日本一を占う試金石となる。



前節 10月24日(日)  
12:00~14:18 横浜スタジアム

チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
鹿島ディアーズ	0	7	7	7	21
五洋建設パイレーツ	0	0	7	0	7



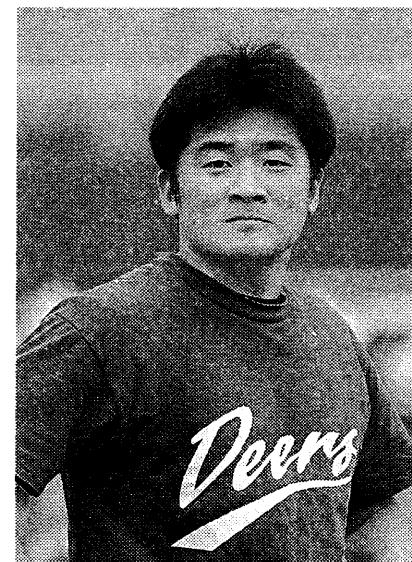
11月2日(火)19:00 東京ドーム  
vs アサヒビールシルバースターズ

選手の移動や食事、防具の整備などを担当する8人のマネージャー陣。ヘッドを務める伊藤氏の役割は通常のマネージャー業務に加え、チアリーダーや応援部との連携、ファンクラブの運営と多岐にわたる。しかし、「最も大変なのは、皆の期待にこたえなければならぬ選手」と、苦労の様子を微塵も見せない。

入部当初は選手として活躍した。この経験から「選手の負担を少しでも軽減したい」という強い思いがある。選手の要望にすべてこたえられるマネージャーを目指してい

「チームを支えていけるようになる」という選手やスタッフの想いをつなぐ「架け橋になりたい」といつも心がけている。

選手の移動や食事、防具の整備などを担当する8人のマネージャー陣。ヘッドを務める伊藤氏の役割は通常のマネージャー業務に加え、チアリーダーや応援部との連携、ファンクラブの運営など多岐にわたる。しかし、「最も大変なのは、皆の期待にこたえなければならない選手」と、苦労の様子を微塵も見せない。



いとう あきお  
伊藤 明男 1996年入社  
本社営業本部所属

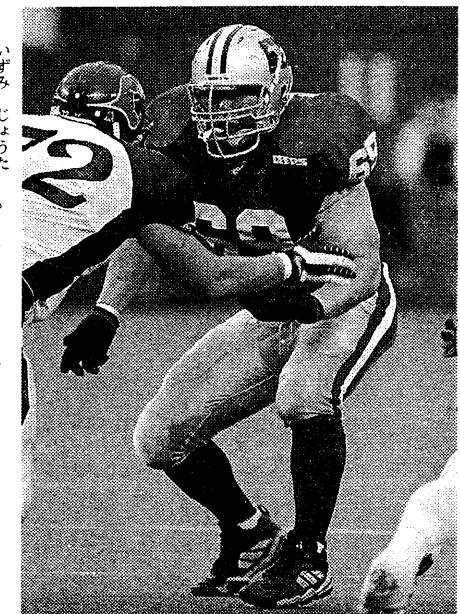
ITO AKIC

チームの思いをつなぐ架け橋に

選手生活のすべてを賭ける #69

いずみ  
じょうた

ポジション・オフエンスライン  
1996年入社、本社海外事業本部所属



11月10日付で海外事業本部に転属した。来春からの海外赴任も決まり、今年が最後のシーズンとなる。昨年に異動の打診があったが、「日本一」になる、という入部以来の夢をどうしても断ち切れきらず、「1年間だけ」という条件で異動を延ばしてもらった。日本一の栄冠をつかむことがする思いはだれにも負けない。

アメフトとは大学時代に出

会った。母校・東京工業大学のアメフト部は入部当時3部リーグに所属。決して強いチームではなかつた。練習場はサッカーゴールの裏の小さなスペース。ナイター設備もなく、日の短い冬場は早朝の練習を重ねるのが日課だつた。タレントぞろいのDEER Sの中であつて、泉は大学時代と同様に時間を惜します、ひたすらに練習を続け、レギュラーにならなければならぬ。日本一の達成には、相手の攻撃を止める堅実なプレーとともに、「コーチ陣の予測を超えるプレーが不可欠」と言い切る泉。チームの作戦に沿いながら、良い意味で相手チームや味方の予想を裏切る。それが得点につながり、チームを勝利に導くと信じてゐる。静かにゆっくりと歩みを進めてきた泉の夢が手の届くところまで来ていふ。

ユラーを獲得した。  
DEERS人部当初に110  
キロ弱だった体重は今や12  
0キロ。その巨体を筋肉トレ  
ーニングで毎日鍛え抜く。コー  
チ陣も成長を続ける泉の肉体  
に驚嘆の声を上げる。

「これまで一度も満足のい  
くアレーをしていない」とい  
う思いが泉を練習に駆り立て  
る。レギュラー獲得後も、い  
つ若手に取って代わられるか  
と恐れている。泉は自らの性  
格を「憶病」と形容する。だ  
から「練習するしかない」。

2004年11月2日 日刊建設工業新聞